

地方独立行政法人秋田県立病院機構の業務の実績（令和元年度）

			自己評価																		
I 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置			A																		
1 質の高い医療の提供			A																		
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価																		
(1) 発症予防に向けた取組			A																		
<p>■ 行政や各種団体が行う脳卒中、心疾患、認知症の発症予防活動がより効果的に行われるよう、県の中心的な専門医療機関として新たな知見や研修の機会を提供する。</p> <p>従来の脳ドックに加え、心臓ドックや高度な診断機器を活用した認知症ドックなど検診の充実に努め、両センターが一体となり予防効果の向上に取り組む。</p>	<p>● 循環器・脳脊髄センターは、保健師など発症予防の指導的役割を担う者に対し、保健指導者講習会を開催する。</p> <p>● リハセンは、発症予防の指導的役割を担う者に対する保健指導者講習会の開催に向けて検討する。</p> <p>● 循環器・脳脊髄センターは、従来の脳ドックに循環器の検査項目を加えた脳・心臓ドックの実施を検討する。</p> <p>● 両センター一体となり、認知症ドックについて実施に向けた課題を検討する。</p>	<p>○ 循環器・脳脊髄センターは、秋田県脳卒中予防推進委員会に参画する委員として県及び県医師会と共同で、「令和元年度脳心血管病予防のための保健指導者講習会」を開催した。</p> <p>・保健指導者講習会 2回</p> <p>○ リハセンは、発症予防の指導的役割を担う者に対する保健指導者講習会の開催に向けて、講習内容を検討した。</p> <p>○ 循環器・脳脊髄センターは、脳ドックについて、循環器の検査項目の追加を検討した。</p> <p>○ 両センター一体となり、認知症ドックの将来的な実施に向けて検討した。循環器・脳脊髄センターは、アミロイドPETの研究利用について準備を始めた。リハセンは、認知症の検査項目を追加した脳ドックについて準備を進めた。</p>																			
<p>平成35年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>指導者講習会開催回数 (リハセン)</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>検診件数(全体)</td> <td>1,475回</td> </tr> </table>	指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	1回	指導者講習会開催回数 (リハセン)	1回	検診件数(全体)	1,475回	<p>平成31年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>指導者講習会開催回数 (リハセン)</td> <td>一回</td> </tr> <tr> <td>検診件数(全体)</td> <td>1,277回</td> </tr> </table>	指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	1回	指導者講習会開催回数 (リハセン)	一回	検診件数(全体)	1,277回	<p>令和元年度の実績値</p> <table border="1"> <tr> <td>指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>指導者講習会開催回数 (リハセン)</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>検診件数(全体)</td> <td>1,303回</td> </tr> </table>	指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	2回	指導者講習会開催回数 (リハセン)	0回	検診件数(全体)	1,303回	
指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	1回																				
指導者講習会開催回数 (リハセン)	1回																				
検診件数(全体)	1,475回																				
指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	1回																				
指導者講習会開催回数 (リハセン)	一回																				
検診件数(全体)	1,277回																				
指導者講習会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	2回																				
指導者講習会開催回数 (リハセン)	0回																				
検診件数(全体)	1,303回																				

中 期 計 画 の 項 目	年 度 計 画 の 項 目	年 度 計 画 に 係 る 実 績	自己評価																								
(2) 政策医療の提供			B																								
① 循環器・脳脊髄センター			B																								
<p>■ 脳と循環器の包括的医療に関しては、脳神経系と循環器系の専門医が共同で医療を提供する脳心血管病診療部の充実などにより体制を強化する。</p> <p>脊髄・脊椎疾患の医療に関しては、高齢者が日常生活能力を維持し生活の質を確保できるよう最新医療を提供する。</p> <p>リハビリテーション医療に関しては、回復期リハビリテーション病棟の増床、心臓リハビリテーションを含めた訓練室の拡充、リハビリテーション療法士のリハセンとの積極的な人事交流などにより体制を強化する。</p> <p>認知症医療に関しては、高度な診断機器も活用し認知機能検査体制の充実に努める。</p> <p>平成35年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>全医師数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>15件</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション療法士数(循脳)</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>PETを利用した認知症の検査数(全体)</td> <td>24人</td> </tr> </table>	全医師数 (循環器・脳脊髄センター)	44人	最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循環器・脳脊髄センター)	15件	リハビリテーション療法士数(循脳)	43人	PETを利用した認知症の検査数(全体)	24人	<p>● 脳と循環器の包括的医療に関しては、体制強化のため医師を増員する。</p> <p>● 脊髄・脊椎疾患の医療に関しては、高齢者の生活の質確保を目的に、脊椎固定装置を使用した低侵襲腰椎固定術等の最新医療を提供する。</p> <p>● リハビリテーション医療に関しては、体制を強化するために、心臓リハビリテーションを含めた訓練室の整備を進めるとともに、リハビリテーション療法士の増員やリハセンとの人事交流を行う。</p> <p>● (なし)</p> <p>平成31年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>全医師数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション療法士数(循脳)</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>PETを利用した認知症の検査数(全体)</td> <td>—人</td> </tr> </table>	全医師数 (循環器・脳脊髄センター)	34人	最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循環器・脳脊髄センター)	1件	リハビリテーション療法士数(循脳)	43人	PETを利用した認知症の検査数(全体)	—人	<p>○ 医師数は減少したが、急性心筋梗塞の治療が可能となり、脳と循環器の包括的医療体制の強化につながった。</p> <p>○ 脊髄・脊椎疾患の医療に関しては、63歳から76歳の腰椎すべり症の患者6人に新規脊椎インプラントを用いて腰椎固定術を行った。 ・新規脊椎インプラント腰椎固定術 ・平成30年6月 薬事法の承認取得 ・令和元年12月 保険収載</p> <p>○ リハビリテーション医療に関しては、東棟に心臓リハビリテーション室を整備した。また、リハビリテーション療法士の増員を図り、リハセンとの人事交流を実施した。 ・人事交流 1人</p> <p>○ (なし)</p> <p>令和元年度の実績値</p> <table border="1"> <tr> <td>全医師数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循脳)</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション療法士数(循脳)</td> <td>39人</td> </tr> <tr> <td>PETを利用した認知症の検査数(全体)</td> <td>0人</td> </tr> </table>	全医師数 (循環器・脳脊髄センター)	24人	最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循脳)	6件	リハビリテーション療法士数(循脳)	39人	PETを利用した認知症の検査数(全体)	0人	
全医師数 (循環器・脳脊髄センター)	44人																										
最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循環器・脳脊髄センター)	15件																										
リハビリテーション療法士数(循脳)	43人																										
PETを利用した認知症の検査数(全体)	24人																										
全医師数 (循環器・脳脊髄センター)	34人																										
最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循環器・脳脊髄センター)	1件																										
リハビリテーション療法士数(循脳)	43人																										
PETを利用した認知症の検査数(全体)	—人																										
全医師数 (循環器・脳脊髄センター)	24人																										
最新の脊椎固定装置(テラーメイド®インプラント)を使用した低侵襲腰椎固定術の件数 (循脳)	6件																										
リハビリテーション療法士数(循脳)	39人																										
PETを利用した認知症の検査数(全体)	0人																										

中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価
<p>② リハセン</p> <p>■ リハビリテーション医療に関しては、循環器・脳脊髄センターとの積極的な人事交流を行い、ロボットによる訓練支援や最新のリハビリテーション療法の導入などにより治療効果の向上に努め、整形外科的疾患も含めた幅広い分野のリハビリテーションを提供するとともに、県が運営する高次脳機能障害相談・支援センターにおいて相談・支援業務を行う。</p> <p>精神医療に関しては、リハビリテーションや短期集中治療の推進、新たな治療法の導入などにより治療効果の向上に努めるとともに、医療観察法に基づく鑑定入院・待機入院を速やかに受け入れ、指定通院については関係機関と連携し支援体制の充実に努める。</p>	<p>● リハビリテーション医療に関しては、ロボットによる訓練支援やバーチャルリアリティ（VR）など最新のリハビリテーション療法を導入するとともに、循環器・脳脊髄センターと人事交流を実施する。また、整形外科的疾患も含めた幅広い分野のリハビリテーションを提供する。</p> <p>● 県が運営する高次脳機能障害相談・支援センターにおいて相談・支援業務を行う。</p> <p>● 精神医療に関しては、生活行為の向上を図るためのリハビリテーションを推進するため多職種で検討する。また、治療抵抗性統合失調症に対してクロザピン療法を導入し、薬物治療抵抗性うつ病に対しては反復経頭蓋磁気刺激法の導入準備を進める。</p> <p>● 医療観察法に基づく鑑定入院・待機入院を速やかに受け入れるとともに、指定通院については、関係機関との連携強化に向けて検討する。</p>	<p>○ リハビリテーション医療に関しては、ロボットによる訓練支援を実施したほか、脳卒中片麻痺手指の患者に対してバーチャルリアリティ（VR）を用いた機能訓練を実施し、効果検証を行った。循環器・脳脊髄センターと人事交流を実施し、職員の資質向上に努めた。整形外科的疾患等も含めた幅広い分野にリハビリテーションを提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 促進機能付き上肢リーチングロボットCoCoroeAR2 180件 ・ 上肢リハビリテーション支援ロボット 20件 ・ ロボットスーツHAL 180件 ・ 人事交流 1人 <p>○ 県が運営する高次脳機能障害相談・支援センターにおいて相談・支援業務を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談件数 356件 ・ 高次脳機能障害支援者研修会 102人 <p>○ 精神医療に関しては、多職種で、患者個々のケースカンファレンスを行い生活行為の向上を図るためのリハビリテーションを推進した。退院後の生活支援として、多職種による退院前訪問や服薬指導を中心とした集団療法を行った。</p> <p>また、治療抵抗性統合失調症に対してクロザピン療法を、薬物治療抵抗性うつ病に対して反復経頭蓋磁気刺激法を導入し治療を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種による退院後に向けた生活支援（退院前訪問） 11件 ・ クロザピン療法 2件 ・ 磁気刺激療法 2件 <p>○ 医療観察法の鑑定入院・待機入院について受入実績はなかった。</p> <p>指定通院については、地域ケア会議へ参加し関係機関との連携強化に努めた。</p>	<p>A</p>

中 期 計 画 の 項 目	年 度 計 画 の 項 目	年 度 計 画 に 係 る 実 績	自己評価						
③ 脳・循環器疾患の三次救急医療と精神科救急の全県拠点病院			A						
<p>■ 両センターとも24時間、365日対応する体制の強化、機能の充実に努め、特に、循環器・脳脊髄センターは、救急隊が搬送する患者受入要請を常に受け入れる。</p>	<p>● 循環器・脳脊髄センターは、救急隊からの要請による患者受入を速やかに行うために、メディカルコントロール協議会や救急隊との各種研究会に参画して連携する。</p> <p>● リハセンは、秋田県精神科救急システムの地域輪番病院及び県拠点病院として、常時患者を受け入れるための体制整備に向けて検討する。</p>	<p>○ 循環器・脳脊髄センターは、医師が県傷病者搬送受入協議会やメディカルコントロール協議会に参画して、救急隊との連携を強化した。 ・救急隊との症例検討会 年2回 ・救急救命士の病院実習 6人</p> <p>○ リハセンは、常時空床を確保し急患の入院に対応するため、精神科救急に携わる病棟医、担当看護師長、担当精神保健福祉士による体制を検討し整備した。 整備後は、年間2度の長期連休に備えた計画的な病床調整を実施したほか、停電時の急患対応を円滑に行うため、精神科鑑定室に非常用電源を設置した。</p>							
中 期 計 画 の 項 目	年 度 計 画 の 項 目	年 度 計 画 に 係 る 実 績	自己評価						
(3) 医療従事者の確保・育成			B						
<p>■ 労働環境の改善、効果的な情報発信などにより医療従事者の確保を図り、特に医師確保については多様な情報収集と採用活動の強化を行う。</p> <p>センター間の人事交流の推進、両センターが一体的に行う研修・教育体制の整備、各種団体や関連学会が主催・運営する研修会や教育システムの活用により医療従事者の育成に努める。</p> <p>平成35年度の計画値 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病院機構の医師数(全体)</td> <td style="text-align: right;">63人</td> </tr> </table> </p>	病院機構の医師数(全体)	63人	<p>● 効果的な情報発信のあり方を検討する。</p> <p>● 医師確保については多様な情報収集と採用活動を行う。</p> <p>● センター間における人事交流を行う。</p> <p>● 両センターが一体的に行う研修について、職種別の教育体制を検討する。また、職員は各種団体や関連学会が主催・運営する研修会や教育システムを活用し参加する。</p> <p>平成31年度の計画値 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病院機構の医師数(全体)</td> <td style="text-align: right;">49人</td> </tr> </table> </p>	病院機構の医師数(全体)	49人	<p>○ 看護師等、人材確保対策が必要な職種の管理職等が人事担当者と協力して情報発信を検討したほか、人材確保にかかる効率的な情報発信を行う手段としてウェブサイトのリニューアルに着手した。</p> <p>○ 医師専門の人材紹介会社を通じて情報を収集し、実際に医師に面談して採用活動を行った。</p> <p>○ センター間において、人事交流を行った。 ・看護部 2人 ・機能訓練部 2人</p> <p>○ 両センターの職種別教育体制の一体化について検討するため、両センター各職種で行われている研修状況を確認した。また、各種関連団体等の学会・研修会に参加させ、医療従事者の資格維持や育成に努めた。 ・学会、研修会への参加回数 循環器・脳脊髄センター 延べ433回 リハセン 延べ355回</p> <p>令和元年度の実績値 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病院機構の医師数(全体)</td> <td style="text-align: right;">39人</td> </tr> </table> </p>	病院機構の医師数(全体)	39人	
病院機構の医師数(全体)	63人								
病院機構の医師数(全体)	49人								
病院機構の医師数(全体)	39人								

中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価																																				
(4) 患者・家族の視点に立った医療サービスの提供			A																																				
<p>■ 療養環境やホスピタリティーを、県民や患者・家族の視点から定期的に点検・評価し、その結果に基づく改善や職員研修を行う。</p> <p>患者の権利を尊重し、患者・家族が信頼して利用できる医療サービスの体制整備に努める。</p> <p>平成35年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>研修会開催回数(リハセン)</td> <td>1回</td> </tr> </table>	研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	1回	研修会開催回数(リハセン)	1回	<p>● 療養環境やホスピタリティーを患者・家族の視点で点検し、評価するための方針を検討する。</p> <p>● (なし)</p> <p>平成31年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>－回</td> </tr> <tr> <td>研修会開催回数(リハセン)</td> <td>－回</td> </tr> </table>	研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	－回	研修会開催回数(リハセン)	－回	<p>○ 患者満足度調査を例年同様に実施し、療養環境やホスピタリティーに対する要望の精査や、一部課題が残り改善を要する接遇について検討した。</p> <p>○ (なし)</p> <p>令和元年度の実績値</p> <table border="1"> <tr> <td>研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>研修会開催回数(リハセン)</td> <td>1回</td> </tr> </table>	研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	1回	研修会開催回数(リハセン)	1回																									
研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	1回																																						
研修会開催回数(リハセン)	1回																																						
研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	－回																																						
研修会開催回数(リハセン)	－回																																						
研修会開催回数 (循環器・脳脊髄センター)	1回																																						
研修会開催回数(リハセン)	1回																																						
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価																																				
(5) より安心して信頼される医療の提供			A																																				
<p>■ 法令遵守を点検する体制を整備し、医療安全対策・院内感染対策・情報セキュリティ対策に関する組織の強化とともに職員研修、担当職員の育成を推進する。</p> <p>定期的に第三者機関による評価を受け改善に努める。</p> <p>平成35年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)</td> <td>2回</td> </tr> </table>	研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)	2回	<p>● 法令遵守を点検する体制を整備する。</p> <p>● リスク管理に関する体制を整備する。</p> <p>● 循環器・脳脊髄センターは、第三者機関による病院機能の評価について受審を検討する。</p> <p>● リハセンは、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の再認定を目指す。</p> <p>平成31年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)</td> <td>2回</td> </tr> </table>	研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)	2回	<p>○ 内部統制委員会を4回開催し、内部統制に関する制度や仕組みを体系的に整理した「秋田県立病院機構の内部統制」(本編・概要版)を取りまとめた。</p> <p>○ 新たに、各センターにリスク管理部門を設置した。</p> <p>○ 循環器・脳脊髄センターは、病院機能の評価について受審を検討し、新築・改修工事終了後に受審することとした。</p> <p>○ リハセンは、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価について4回目の認定を受けた。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>(H26)</td> <td>(R1)</td> </tr> <tr> <td>S評価</td> <td>1項目</td> <td>6項目</td> </tr> <tr> <td>A評価</td> <td>90項目</td> <td>100項目</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>15項目</td> <td>1項目</td> </tr> </table> <p>令和元年度の実績値</p> <table border="1"> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)</td> <td>2回</td> </tr> </table>		(H26)	(R1)	S評価	1項目	6項目	A評価	90項目	100項目	B評価	15項目	1項目	研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)	2回	研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)	2回	
研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)	2回																																						
	(H26)	(R1)																																					
S評価	1項目	6項目																																					
A評価	90項目	100項目																																					
B評価	15項目	1項目																																					
研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全) (循環器・脳脊髄センター)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (医療安全)(リハセン)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理) (循環器・脳脊髄センター)	2回																																						
研修会職員一人あたり受講回数 (感染管理)(リハセン)	2回																																						

I 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置			自己評価						
2 医療に関する調査及び研究			B						
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価						
(1) 循環器・脳脊髄センターの研究体制の強化			B						
<p>■ センターの組織に研究所を明確に位置づけ、診療部門を兼任する研究員のほかに研究に専従する研究員を一定数確保し、脳・脊髄・循環器疾患についてより先駆的な研究及び臨床に応用できる研究を推進して医療水準の向上を図る。</p> <p>平成35年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>7人</td> </tr> </table>	専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)	7人	<p>● 研究に専従する研究員を増員する。</p> <p>平成31年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>5人</td> </tr> </table>	専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)	5人	<p>○ 研究に専従する研究員は採用目的を明確にし募集したが、採用に至らなかった。 なお、センター内組織に位置づけられた研究所において臨床に応用できる研究を推進したほか、県内の2大学とそれぞれ共同研究を開始した。 ・臨床応用を重視した院内公募制度による研究数 20件</p> <p>令和元年度の実績値</p> <table border="1"> <tr> <td>専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>4人</td> </tr> </table>	専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)	4人	
専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)	7人								
専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)	5人								
専従の研究員数 (循環器・脳脊髄センター)	4人								
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価						
(2) 研究成果の広報			B						
<p>■ 論文発表を推進し、研究成果をウェブサイトやマスメディアを活用し県民へ広報する。</p> <p>平成35年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>35件</td> </tr> </table>	原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)	35件	<p>● 原著論文を年31件以上発表する。</p> <p>● 研究成果をウェブサイトやマスメディアを活用し県民へ広報する。</p> <p>平成31年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>31件</td> </tr> </table>	原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)	31件	<p>○ 原著論文は年29件発表した。うち、16件は英文論文である。</p> <p>○ 研究成果についてはウェブサイトへ掲載するとともに、地元新聞を活用し県民へ広報した。 ・研究だよりの新聞掲載 1回 (2月3日 秋田魁新報)</p> <p>令和元年度の実績値</p> <table border="1"> <tr> <td>原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>29件</td> </tr> </table>	原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)	29件	
原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)	35件								
原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)	31件								
原著論文発表件数 (循環器・脳脊髄センター)	29件								

I 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置			自己評価																														
3 医療連携の推進及び地域医療への貢献			B																														
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価																														
(1) 医療連携の推進			B																														
<p>■ 専門性が高く、二次及び三次救急を担い、回復期リハビリテーションも提供する病院として地域包括ケアシステムにおける役割を明確にし、関係機関との連携を強化する。</p> <p>循環器・脳脊髄センターは秋田市および周辺地域の二次救急医療機関とともに県の三次医療機関としての連携強化に努め、回復期リハビリテーションの他医療機関との連携パスを推進する。</p> <p>リハセンは精神科救急の地域の輪番病院とともに全県拠点病院としての連携強化に努め、脳卒中地域連携クリニカルパスを推進する。</p>	<p>● 循環器・脳脊髄センターは、県の三次医療機関として地域連携患者支援室を中心に全県域の医療機関への訪問活動を実施する。また、回復期リハビリテーションについては脳卒中地域連携パス推進のための体制整備を進める。</p> <p>● リハセンは、秋田周辺精神科救急医療圏及び由利本荘・にかほ精神科救急医療圏の輪番制に参加し、当番日には対象患者を受け入れるとともに、全県拠点病院として、精神科救急医療体制連絡調整委員会に参画する。</p> <p>● 秋田道沿線地域医療連携協議会において関係機関と連携し「脳卒中地域連携クリニカルパス」を活用する。</p>	<p>○ 循環器・脳脊髄センターは、全県域の医療機関への訪問活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機関数 56機関 また、脳卒中地域連携パスの運用を推進し、多職種による協議会を定期的に開催するなど体制を整備した。 脳卒中地域連携協議会 年3回 <p>○ リハセンは「秋田周辺」及び「由利本荘・にかほ」地域の精神科救急医療圏の輪番制に参加し患者を受け入れたほか、全県拠点病院として地域拠点病院や輪番病院が受け入れできない患者を受け入れた。</p> <p>また、全県域の体制を検討する秋田県精神科救急医療体制連絡調整委員会や「秋田周辺」及び「由利本荘・にかほ」地域における精神科救急医療体制地域連絡調整会議に参画した。</p> <p>さらに、今年度から「由利本荘・にかほ」地域の輪番担当を1か月当たり1日増やし、次年度から「秋田周辺」地域の輪番担当を1か月当たり1～2日増やすことが決定され、地域病院の負担軽減に貢献している。</p> <p>○ 秋田道沿線地域医療連携協議会を開催し、関係機関と連携の上、「脳卒中地域連携クリニカルパス」を活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋田道沿線地域医療連携協議会 年3回 																															
<p>平成35年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>660件</td> </tr> <tr> <td>回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)</td> <td>200人</td> </tr> <tr> <td>連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>36件</td> </tr> <tr> <td>精神科救急件数(リハセン)</td> <td>165件</td> </tr> <tr> <td>脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)</td> <td>175件</td> </tr> </table>	救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)	660件	回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)	200人	連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)	36件	精神科救急件数(リハセン)	165件	脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)	175件	<p>平成31年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>600件</td> </tr> <tr> <td>回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)</td> <td>190人</td> </tr> <tr> <td>連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>24件</td> </tr> <tr> <td>精神科救急件数(リハセン)</td> <td>165件</td> </tr> <tr> <td>脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)</td> <td>165件</td> </tr> </table>	救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)	600件	回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)	190人	連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)	24件	精神科救急件数(リハセン)	165件	脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)	165件	<p>令和元年度の実績値</p> <table border="1"> <tr> <td>救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>541件</td> </tr> <tr> <td>回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)</td> <td>189人</td> </tr> <tr> <td>連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>16件</td> </tr> <tr> <td>精神科救急件数(リハセン)</td> <td>164件</td> </tr> <tr> <td>脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)</td> <td>157件</td> </tr> </table>	救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)	541件	回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)	189人	連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)	16件	精神科救急件数(リハセン)	164件	脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)	157件	
救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)	660件																																
回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)	200人																																
連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)	36件																																
精神科救急件数(リハセン)	165件																																
脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)	175件																																
救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)	600件																																
回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)	190人																																
連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)	24件																																
精神科救急件数(リハセン)	165件																																
脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)	165件																																
救急搬送件数 (循環器・脳脊髄センター)	541件																																
回復期リハビリテーション病棟新規入院患者数(リハセン)	189人																																
連携パス使用件数 (循環器・脳脊髄センター)	16件																																
精神科救急件数(リハセン)	164件																																
脳卒中地域連携クリニカルパス使用件数(リハセン)	157件																																

中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価																														
(2) 地域医療への貢献			B																														
<p>■ 健康寿命延伸に向け県民へ医療や健康に関する情報を発信するとともに、他医療機関の医療従事者へ教育・研修の機会を提供し、医師を対象に認知症医療の短期研修を行い認知症患者への対応能力向上を図る。</p> <p>医師不足のため診療支援を希望する医療機関へ可能な範囲で医師の派遣を行うとともに、県内医療機関への画像診断サービスを推進する。</p> <table border="1" data-bbox="488 1262 815 1490"> <tr><td colspan="2">平成35年度の計画値</td></tr> <tr><td>県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)</td><td>7回</td></tr> <tr><td>認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)</td><td>10人</td></tr> <tr><td>画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)</td><td>600件</td></tr> <tr><td>画像診断サービス提供件数 (リハセン)</td><td>250件</td></tr> </table>	平成35年度の計画値		県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)	7回	認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)	10人	画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)	600件	画像診断サービス提供件数 (リハセン)	250件	<p>● 各種研修会を開催するとともに、医療や健康に関してウェブサイトで情報を発信し、広報誌を発行する。</p> <p>● また、他医療機関の医療従事者を対象とした研修会を開催するとともに、職員を講師として派遣する。</p> <p>● 医師を対象とした認知症医療の短期研修の開催に向けて、プログラムを検討する。</p> <p>● 診療支援を希望する医療機関に対し、可能な範囲で医師の派遣を行う。</p> <p>● 県内医療機関へ画像診断サービスを周知し、実施する。</p> <table border="1" data-bbox="864 1262 1279 1490"> <tr><td colspan="2">平成31年度の計画値</td></tr> <tr><td>県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)</td><td>7回</td></tr> <tr><td>認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)</td><td>一人</td></tr> <tr><td>画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)</td><td>503件</td></tr> <tr><td>画像診断サービス提供件数 (リハセン)</td><td>240件</td></tr> </table>	平成31年度の計画値		県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)	7回	認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)	一人	画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)	503件	画像診断サービス提供件数 (リハセン)	240件	<p>○ 各種研修会を開催した。 ・循環器・脳脊髄センター 脳卒中予防講演会 1回 51人 出前講座(申込制) 3回230人 ・リハセン リハセン講演会 1回 50人 医療や健康に関してウェブサイト 情報を発信し、広報誌を発行した。 ・循環器・脳脊髄センター 医療連携情報誌ぐりあ 2回 ・リハセン リハセンだより 2回</p> <p>○ 他医療機関の医療従事者等を対象とした研修会を開催した。 ・循環器・脳脊髄センター 保健指導者講習会 2回延べ25人 ・リハセン(各1回) 精神科ケアシリーズ 42人 リハ科ケアシリーズ 61人 認知症ケアシリーズ 285人 各医療職の職員を講師として派遣した。 ・循環器・脳脊髄センター延べ51人 ・リハセン 延べ36人 なお、秋田大学医学部の学生実習を積極的に受け入れた。 ・循環器・脳脊髄センター 14人 ・リハセン 28人</p> <p>○ リハセンは、医師を対象とした認知症医療の短期研修の開催に向けて、プログラムの内容を検討した。</p> <p>○ 診療支援を希望する医療機関に対し、可能な範囲で医師を派遣した。 ・循環器・脳脊髄センター 派遣先医療機関 26機関 派遣医師数 延べ39人 ・リハセン 派遣先医療機関 11機関 派遣医師数 延べ14人</p> <p>○ 県内医療機関へ画像診断サービスをウェブサイトや広報誌等で周知した。 ・依頼のあった医療機関数 循環器・脳脊髄センター 41機関 リハセン 9機関</p> <table border="1" data-bbox="1328 1262 1742 1490"> <tr><td colspan="2">令和元年度の実績値</td></tr> <tr><td>県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)</td><td>4回</td></tr> <tr><td>認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)</td><td>0人</td></tr> <tr><td>画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)</td><td>632件</td></tr> <tr><td>画像診断サービス提供件数 (リハセン)</td><td>136件</td></tr> </table>	令和元年度の実績値		県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)	4回	認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)	0人	画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)	632件	画像診断サービス提供件数 (リハセン)	136件	
平成35年度の計画値																																	
県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)	7回																																
認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)	10人																																
画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)	600件																																
画像診断サービス提供件数 (リハセン)	250件																																
平成31年度の計画値																																	
県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)	7回																																
認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)	一人																																
画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)	503件																																
画像診断サービス提供件数 (リハセン)	240件																																
令和元年度の実績値																																	
県民向け講演会回数 (循環器・脳脊髄センター)	4回																																
認知症医療短期研修 参加医師数(リハセン)	0人																																
画像診断サービス提供件数 (循環器・脳脊髄センター)	632件																																
画像診断サービス提供件数 (リハセン)	136件																																

I 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置			自己評価
4 災害時における医療救護等			A
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価
(1) 循環器・脳脊髄センター			A
<p>■ 災害派遣医療チーム（DMAT）の整備とともに災害拠点病院としての整備を推進し、県内外で開催される研修会や訓練に参加し発災に備える。</p> <p>秋田県災害医療対策本部のコーディネーターチームへ参画する。</p>	<p>● 県内外で開催される研修会や訓練に参加して災害派遣医療チーム（DMAT）隊員の能力向上を図り、発災に備える。</p> <p>● 秋田県災害医療対策本部のコーディネーターチームへ参画する。</p>	<p>○ 災害派遣医療チーム（DMAT）隊員の能力向上を図るため、県内外で開催された訓練に参加したほか、台風の被災地にDMATを派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練、研修等の参加 秋田県総合防災訓練 4人 東北ブロックDMAT参集訓練（新潟県） 9人 秋田空港消化救難訓練 4人 DMAT技能維持研修(宮城県) 6人 DMAT広域医療搬送実機研修（千葉県） 5人 ・DMAT派遣 令和元年台風19号(宮城県)延べ8人 <p>○ 秋田県災害医療対策本部のコーディネーターチームに医師2人が災害医療コーディネーターとして参画した。</p>	
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価
(2) リハセン			A
<p>■ 災害派遣精神医療チーム（DPAT）の整備とともに災害拠点精神科病院としての整備を推進し、県内外で開催される研修会や訓練に参加し発災に備える。</p>	<p>● 県内外で開催される研修会や訓練に参加して災害派遣精神医療チーム（DPAT）隊員の能力向上を図り、発災に備える。</p> <p>● 災害拠点精神科病院の指定に向けてリハセン内の体制整備を検討する。</p>	<p>○ 県内外で開催された研修会に参加し、災害派遣精神医療チーム（DPAT）隊員の能力向上を図り、発災に備えた。</p> <p>また、中国湖北省武漢市からの帰国者支援のため、DPATを派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修、訓練等の参加 県総合防災訓練 6人 大規模地震時医療活動訓練（内閣府主催） 3人 県DPAT統括者会議 1人 秋田大学医学部附属病院総合防災訓練見学 2人 岩手医科大学災害看護研修 3人 統括者/先遣隊技能維持研修及び先遣隊会議 3人 青森県DPAT研修会 5人 ・DPAT派遣 中国武漢市からの帰国者支援4人 <p>○ 災害拠点精神科病院の指定に向けて、厚生労働省や秋田県からの情報収集に努め、リハセン内の体制整備を検討した。</p>	

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置			自己評価						
1 効率的な運営体制の構築			A						
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価						
(1) 病院機構全体を一体的に運営する効率的な体制の構築			A						
<p>■ 地方独立行政法人法の一部改正に伴う内部統制体制の整備を行うとともに、病院機構を一体的に運営する事務体制の整備を推進する。</p>	<p>● 病院機構全体の内部統制体制の整備を行う。</p> <p>● 事務体制の整備に向けて検討する。</p>	<p>○ 内部統制委員会を4回開催し、内部統制に関する制度や仕組みを体系的に整理した「秋田県立病院機構の内部統制」（本編・概要版）を取りまとめた。</p> <p>○ 事務体制の現状を確認し、一体的に運営する体制案を検討した。</p>							
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価						
(2) 経営改革			A						
<p>■ 経営指標を定期的に評価し、経営改善の計画を策定し実施する。</p>	<p>● 経営指標を定期的に評価するためのシステムを構築する。</p>	<p>○ データウェアハウスに診療の各種データを一元化した。また、経営状態の定期評価に向け、原価計算システムを構築し、稼働に向けて準備した。</p>							
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置			自己評価						
2 病院経営に携わる事務部門の職員の確保・育成			A						
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価						
<p>■ 病院経営を希望する職員を計画的に採用し、各種研修会の受講、病院経営に関する資格の取得、指導的立場の人材育成などにより病院経営に精通した人材の確保と育成に努める。</p> <p>平成35年度の計画値 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病院経営管理士資格所持者数(全体)</td> <td>5人</td> </tr> </table> </p>	病院経営管理士資格所持者数(全体)	5人	<p>● 病院経営を希望する職員を計画的に採用する。</p> <p>● 病院経営管理士資格取得のための教育プログラムを受講させる。</p> <p>平成31年度の計画値 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病院経営管理士資格所持者数(全体)</td> <td>2人</td> </tr> </table> </p>	病院経営管理士資格所持者数(全体)	2人	<p>○ 本部事務局及び循環器・脳脊髄センターに、病院経営を目指す職員を採用した。</p> <p>○ 病院経営管理士資格取得のための教育プログラムの受講を開始した。 ・病院経営管理士教育プログラム 受講者 1人</p> <p>令和元年度の実績値 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病院経営管理士資格所持者数(全体)</td> <td>2人</td> </tr> </table> </p>	病院経営管理士資格所持者数(全体)	2人	
病院経営管理士資格所持者数(全体)	5人								
病院経営管理士資格所持者数(全体)	2人								
病院経営管理士資格所持者数(全体)	2人								

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置			自己評価												
3 収入の確保、費用の節減			B												
中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価												
(1) 収入の確保			B												
<p>■ 救急隊や他医療機関との連携強化、医療機能の広報などにより病床利用率の向上に努めるとともに、診療報酬改定へ迅速・適切に対応する。</p>	<p>● 循環器・脳脊髄センターは、県の三次医療機関として地域連携患者支援室を中心に全県の医療機関への訪問活動を実施する。また、回復期リハビリテーションについては脳卒中地域連携バス推進のための体制整備を進める。</p> <p>● リハセンは、秋田周辺精神科救急医療圏及び由利本荘・にかほ精神科救急医療圏の輪番制に参加し、当番日には対象患者を受け入れるとともに、全県拠点病院として、精神科救急医療体制連絡調整委員会に参画する。</p> <p>● 秋田道沿線地域医療連携協議会において関係機関と連携し「脳卒中地域連携クリニカルバス」を活用する。</p>	<p>○ 循環器・脳脊髄センターは全県の医療機関への訪問活動を実施した。 ・医療機関数 56機関 また、脳卒中地域連携バスの運用を推進し、多職種による協議会を定期的に開催するなど体制を整備した。 ・脳卒中地域連携協議会 年3回 【再掲】</p> <p>○ リハセンは「秋田周辺」及び「由利本荘・にかほ」地域の精神科救急医療圏の輪番制に参加し患者の受け入れたほか、全県拠点病院として地域拠点病院や輪番病院が受け入れできない患者を受け入れた。 また、全県の体制を検討する秋田県精神科救急医療体制連絡調整委員会や「秋田周辺」及び「由利本荘・にかほ」地域における精神科救急医療体制地域連絡調整会議に参画した。 さらに、今年度から「由利本荘・にかほ」地域の輪番担当を1か月当たり1日増やし、次年度から「秋田周辺」地域の輪番担当を1か月当たり1～2日増やすことが決定され、地域病院の負担軽減に貢献している。 【再掲】</p> <p>○ 秋田道沿線地域医療連携協議会を開催し、関係機関と連携の上、「脳卒中地域連携クリニカルバス」を活用した。 ・秋田道沿線地域医療連携協議会 年3回 【再掲】</p>													
<p>平成35年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>83.5%</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(リハセン)</td> <td>87.0%</td> </tr> </table>	病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)	83.5%	病床利用率(リハセン)	87.0%	<p>平成31年度の計画値</p> <table border="1"> <tr> <td>病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>91.3%</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(リハセン)</td> <td>86.2%</td> </tr> </table>	病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)	91.3%	病床利用率(リハセン)	86.2%	<p>令和元年度の実績値</p> <table border="1"> <tr> <td>病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>79.8%</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(リハセン)</td> <td>86.3%</td> </tr> </table>	病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)	79.8%	病床利用率(リハセン)	86.3%	
病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)	83.5%														
病床利用率(リハセン)	87.0%														
病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)	91.3%														
病床利用率(リハセン)	86.2%														
病床利用率 (循環器・脳脊髄センター)	79.8%														
病床利用率(リハセン)	86.3%														

中期計画の項目	年度計画の項目	年度計画に係る実績	自己評価																							
(2) 費用の節減			B																							
<p>■ 費用対効果の検討による費用の節減、予算執行の管理・審査体制の強化、多様な契約手法の活用や競争原理の徹底、医薬品・診療材料の在庫管理の徹底、後発医薬品への切り替えに努める。</p> <p>平成35年度の計画値</p> <table border="1" data-bbox="488 587 815 821"> <tr> <td>材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>30.4%</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>37.0%</td> </tr> <tr> <td>材料費の対医業収益比率 (リハセン)</td> <td>14.3%</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)</td> <td>75.0%</td> </tr> </table>	材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)	30.4%	ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)	37.0%	材料費の対医業収益比率 (リハセン)	14.3%	ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)	75.0%	<p>● 物流システムの導入による在庫管理の徹底、複数年契約や一括の単価契約など多様な契約手法を活用する。</p> <p>● 診療材料の類似品目の集約化によりコストを抑える。</p> <p>● また、後発医薬品については、使用頻度の高い薬剤について切り替えを進める。</p> <p>平成31年度の計画値</p> <table border="1" data-bbox="864 587 1272 821"> <tr> <td>材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>28.0%</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>36.5%</td> </tr> <tr> <td>材料費の対医業収益比率 (リハセン)</td> <td>14.6%</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)</td> <td>71.0%</td> </tr> </table>	材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)	28.0%	ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)	36.5%	材料費の対医業収益比率 (リハセン)	14.6%	ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)	71.0%	<p>○ 新物流システムの導入により在庫定数管理を徹底し、さらに医事システムや手術システムとの連携を図ったほか、複数年契約や複数単価契約などの多様な契約手法を活用した。</p> <p>○ 医療従事者用防護具製品の種別を集約して単価を引き下げた。</p> <p>○ 後発医薬品については、重点的な管理項目にとりあげてその割合を管理し、切り替えを推進した。</p> <p>令和元年度の実績値</p> <table border="1" data-bbox="1326 587 1733 821"> <tr> <td>材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>23.3%</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)</td> <td>39.8%</td> </tr> <tr> <td>材料費の対医業収益比率 (リハセン)</td> <td>14.0%</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)</td> <td>70.8%</td> </tr> </table>	材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)	23.3%	ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)	39.8%	材料費の対医業収益比率 (リハセン)	14.0%	ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)	70.8%
材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)	30.4%																									
ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)	37.0%																									
材料費の対医業収益比率 (リハセン)	14.3%																									
ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)	75.0%																									
材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)	28.0%																									
ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)	36.5%																									
材料費の対医業収益比率 (リハセン)	14.6%																									
ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)	71.0%																									
材料費の対医業収益比率 (循環器・脳脊髄センター)	23.3%																									
ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (循環器・脳脊髄センター)	39.8%																									
材料費の対医業収益比率 (リハセン)	14.0%																									
ジェネリック医薬品採用率(数量ベース) (リハセン)	70.8%																									